



能 登 上 布

歴史と特色

崇神天皇の皇女が能登の鹿西町(現・中能登町)に滞在した折、真麻の上用を作ることを土地の人に伝えたのが始まりと言われている。

元禄年間には、鹿島郡・羽咋郡の女子の主要な副業として織られ、近江商人によって販路が開かれていた。

明治以降も独特の櫛押し捺染や板ヅ、ロール染、型紙捺染と種々の方法により、柄柄や横惣、縮などを生産し飛躍的に伸びた。特に、織幅に十文字縞を120個から140個織り出す組み合わせの正確さにより上用の最高級品とされている。

しかし、生活様式の変化で需要が落ち込んでいるが、後継者育成などに努力が続けられている。昭和35年石川県無形文化財に指定された。

歴史與特色

在江戸時代、鹿島郡和羽咋郡の女子紡織能登上布、將其售至西日本各地。明治時期以後、因開發了各種各樣的技法和式樣、生產得到了飛躍性的發展。織布的橫幅由120個到140個十字形的網緞花紋交織而成、其準確無誤的交叉搭配堪稱為是最高級的上布。1960年、被指定為石川縣的無形文化財產。

情報 資訊

主な生産地(主要産地)	羽咋市(羽咋市)、中能登町(中能登町)
主な製品名(主要産品名)	亀甲縞、十字紋縞(龜甲網緞花紋、十字形網緞花紋)
主な生産者(主要生産者)	山崎麻織物工房(山崎麻織物工房) 〒929-1571 羽咋市下曾祢町ヲ84(羽咋市下曾祢町ヲ84) TEL (0767)26-0240 能登上布會館(能登上布會館) 〒929-1604 鹿島郡中能登町能登部下134部1番地(鹿島郡中能登町能登部下134部1番地) TEL (0767)72-2233



歴史と特色

武器として製造されていた火薬が、江戸中期より娯楽に使用されるようになり、花火が生まれたと言われ、金沢においても当時より製造されていたものと思われる。

金沢では、明治以後大正末まで製造されていた。能登地方においては、昭和初期頃まで祭礼に使用するため各地で花火が製造されていたが、押水町に専業として製造するものが現れ、現在に受け継がれている。

豪華な打ち上げ花火を中心として製造され、県内はもとより主に関西、中部地区で打ち上げられている。

歴史與特色

作為武器製造出的火藥在江戸時代被用於製造煙火。金澤則是在明治至大正末期間生產製造煙火。能登地區在昭和初期以前、各地都在製造煙火。現在、能登の押水町則製造豪華燦爛的冲天煙火。

能 登 花 火

能 登 花 火

情報 資訊

主な生産地(主要産地)	宝達志水町(寶達志水町)
主な製品名(主要産品名)	打ち上げ花火、スターメイン、仕掛け花火(冲天煙火、連續式連射煙火、花樣煙火)
主な生産者(主要生産者)	能登煙火株(能登煙火(株)) 〒929-1313 羽咋郡宝達志水町字東間ヲ3-2(羽咋郡寶達志水町字東間ヲ3-2) TEL (0767)28-2514